

## 研究機関名：東北大学

受付番号： 2009-135
研究課題名 急性散在性脳脊髄炎、視神経炎患者血清における抗アクトリン4抗体陽性率の検討
研究期間 西暦 2009年7月（倫理委員会承認後）～2014年6月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input checked="" type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（）
上記材料の採取期間 西暦 1992年3月～ 西暦 2007年1月
意義、目的 抗アクトリン4抗体は、視神経脊髄炎に特異的な抗体である。本抗体の発見により、類似の症状を呈する多発性硬化症との相違が明瞭となり、治療選択も異なることが分かった。東北大学神経内科では、これまで高感度抗アクトリン4抗体の検査を全国から受け付け、多くの症例を収集してきた。小児期発症の抗アクトリン4抗体陽性患者の臨床像を検討したところ、発症初期に視神経炎や多発性硬化症と診断されている症例があることがわかった。急性散在性脳脊髄炎、多発性硬化症、視神経炎は、発症初期の臨床症状や画像所見による鑑別は困難であることから、これまで急性散在性脊髄炎または視神経炎と診断されてきた症例の中に、抗アクトリン4抗体陽性の症例がある可能性があると考えられた。そこで、東北大学小児科で保存している急性散在性脳脊髄炎または視神経炎の患者血清における抗アクトリン4抗体検査を施行することを考えた。本研究により、同様の症状出現時の治療法選択に大きく寄与すると考えられる。
方法 培養細胞（HEK293）膜上にヒトアクトリン4蛋白を強制発現させる。培養下で血清中のIgGの反応の有無を、間接抗体法を用いて調べる。抗アクトリン4抗体の判定は、陽性（希釈倍率16倍）か陰性かの定性結果で示す。
問い合わせ・苦情等の窓口 福與なおみ 所属：東北大学病院 小児科 住所：宮城県仙台市青葉区星陵町1-1 電話番号：022-7171-7287 FAX：022-717-7290